

甲南大学教授 山崎 俊輔さん



神戸から世界へ、自他共栄の精神

「柔道の黒帯で世界をつなぐ」をスローガンにして、県内の指導者と共に神戸市友好使節・甲南大学柔道部遠征団を結成、1987年に最初の海外柔道遠征（中国・天津市）が実施されました。その後、4年に一度は全員が学生たちが在学中に海外遠征が経験できるようにと、フランス、スイス、オランダ、オーストラリア、米国、タイ、ブータン、カナダなどを計10回訪れ、柔道交流をしてきました。毎年多くの海外の柔道家が甲南大学を訪れ、学生とともに練習をしています。

2018年には御影地区の方々との協力で「カナダ・御影国際交流事業」を実施し、親善試合や交流会、国際柔道シンプodiumを開催しました。計画、準備の段階から学生たちが主体的に参加し、海外遠征や国際交流の実験の体験から自らが学ぶことを大切にしています。

神戸には、国際都市として海外との交流で発展してきた歴史があります。甲南大学には「世界の紳士淑女たれ」という平生三郎（甲南学園創始者）の建学の精神を表す言葉があり、国際交流が伝統的に積極的に行われています。また神戸市東灘区（御影）は講道館柔道創始者嘉納治五郎の生誕地です。

神戸市や甲南大学など、関係する多くの方々に協力していただき、海外遠征や国際交流が実施できていることを改めて実感しています。

神戸での体験から生まれた事業では、嘉納治五郎の生誕地として「K

OBE 自他共栄 CUP」学生柔道大会」があります。大震災から10年を経た2005年3月、復興記念と国内外からの温かい支援に対して感謝の気持ちを表そう、と第1回大会が開催されました。

阪神・淡路大震災では、その被害と混乱の中で、若者を中心にボランティア活動が盛んに行われていました。同時に「自他共栄」の精神の貴さとそれを実践することの大切さを、自らの体験の中で気づきました。「この精神を未来にわたり大切に育んでいかなければならない」という熱い思いが、本大会を創設したわれわれの原動力になっています。

第16、17、18回大会は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から競技の部は中止されました。しかし、自他共栄の理念を啓発し、普及を目指した取り組みである「自他共栄賞」「柔道標語賞」は実施しています。第17、18回大会は、オンラインによるKOB E自他共栄CUP国際シンプodiumが実施されました。第18回のテーマは「柔道の国際化と嘉納治五郎師範の思い」で、日本、ドイツ、ブータンの人々たちを結んで開催しました。

新型コロナウイルス感染症のまん延やロシアのウクライナ侵攻などが、世界の人々の心を恐怖と混乱に落とし込んでいます。今、このような時こそ、世界の人々と手を携えて協力しながら「自他共栄」の精神の実践に努め、「現在、そして、未来」にかけてその精神を伝えていかなければならないと思っています。

やまさき・しゅんすけ 1956年生まれ。姫路市出身。白陵高、筑波大を経て筑波大大学院修了。81年に甲南大に赴任し、現共通教育センター教授。全日本柔道連盟教育普及MIND委員会特別委員、講道館柔道8段。